

解答

問一 これまで仲間はそれにされたことがなく、とうさんの話を少し大げさだと思っていたが、自分のことをみんながよそもんと思っていたことを知り、ショックを受け悲しむ気持ち。

問二 みや子は、健ちゃに「よそものでない」とはげまされてやる気になり、さらに鹿踊りのおはやしきいて感動したことで、自分もその仲間に入っておどりたいと思ったから。

問三 家族が牛の世話などの仕事を一生懸命する姿が目に浮かび、自分も手伝いをしなければならないのに、間に合わなくなってしまったので焦っているということ。

問四 仕事を優先してみや子に寂しい思いをさせてきたことを後悔し、今けがをしてつらい思いをしているみや子をなぐさめたいという気持ち。

問五 ⑤では、来年は健ちゃと一緒におどないので悲しく思っているが、⑥では、健ちゃの立派なおどりを見て、夢の中で一緒におどつたことを思い出し、来年、健ちゃにほめられるように頑張っておどることを決意している。

問一 身ぶり手ぶり、表情などの視覚的なコミュニケーションによる段階から、より効率のよい伝達手段として音声言語が誕生したという考え方。

問二 ヒトは身体模倣能力が高いため、身ぶりに一定のルールを持たせ、多数の仲間と共有し、その背後にある心の状態も理解し、伝え合うことができるから。

三

- ① 固辞 ② 取捨 ③ 歴訪 ④ 独奏 ⑤ 湯治

二

問一 身ぶり手ぶり、表情などの視覚的なコミュニケーションによる段階から、より効率のよい伝達手段として音

声言語が誕生したという考え方。

問二 ヒトは身体模倣能力が高いため、身ぶりに一定のルールを持たせ、多数の仲間と共有し、その背後にある心の状態も理解し、伝え合うことができるから。

三

- ① 固辞 ② 取捨 ③ 歴訪 ④ 独奏 ⑤ 湯治